2024年度 立命館大学大学院学生研究会活動支援制度 研究成果報告

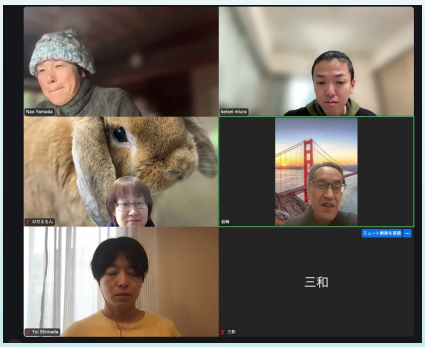
実践日本語教育研究会

本研究会の目的

・日本語教育の現場で感じた問題意識や事例を持ち寄り検討・研究を行う。
・読書会や論購読会、研究成果の発表を通して、日本語教育学の知見と理解を拡充する。
・研究会を通して身につけたものを、実際の日本語教育現場での実践に活かす。

活動報告

・週一回(毎週日曜日)の定例会（論購読・事例報告）を継続してオンラインで実施した。
・読書会等で英書購読を行なった。
・学外から講師を招き講演会を行った。（木村政康先生）
・学外からゲストスピーカーを招き講習を実施した。（中村則子先生）
・各人の研究成果について報告会を定期的に開催した。
・学会へ積極的に参加し、そこで得た知見を都度研究会内で共有した。
・メンバーの発表練習などを行なった。



定例会（オンライン）の様子

11月2日木村政康先生講演会

購読図書・論文(一例)

・Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2011). Teaching and Researching Motivation (2nd ed.)chapter4
・有泉芳彦(2000) 学習者にやさしい日本語教育 ： Andragogyの視点から
・小林明子 他(2017) 日本語教育に役立つ心理学入門

活動の成果

・三浦景星「ベトナム人日本語学習者の促音知覚に関する心理神経言語学研究」修士論文（内容を一部修正・変更した形で紀要掲載予定）
・三浦景星「ベトナム人日本語学習者の促音知覚-脳波を用いた探索的研究－」言語学フェス2025にてポスター発表(2025年2月1日)
・三浦景星「ベトナム人日本語学習者の促音知覚 ー脳波に現れる事象関連電位P300 を指標としてー」日本語教育学会春季大会(2025)にて口頭発表予定(採択)
・深石葉子「TOWL3を基盤とした日本語作文評価 基準の検討ー外国ルーツ高校生作 文の分析ー」日本語教育学会春季大会(2025)にて口頭発表予定(採択)
・嶋田由唯「物語を読解後にマンガを描く授業実践ー読みによる理解を非言語で表現する意義に着目してー」日本語教育学会2024 年度第 4回支部集会【関西支部】にてポスター発表予定(採択)

その他、修士（博士）論文執筆中